

この本の効果的な使い方

この『演習問題集 国語』は、『予習シリーズ』の各回の〈文章読解〉の単元に合わせてつくられた「文章読解問題集」です。〈文章読解〉が得意で、もっと問題を解くことによって〈読む力〉を高めたいという生徒を、あるいは逆に、〈文章読解〉が不得意で、練習量・学習量を増やすことによって〈読む力〉を補強したいという生徒を対象につくられています。

文章、および問題のレベルは、『予習シリーズ』とほぼ同じレベルですから、『予習シリーズ』の学習を終えて、無理なく取り組みます。

効果的な学習方法は、基本的には『予習シリーズ』とかわりませんが、〈文章読解〉が不得意な場合と得意な場合に分けてアドバイスをしておきます。

◎〈文章読解〉が不得意な場合の学習方法

文章内容の正確な理解が成立していれば、ほとんどの問いに答えられるはずですが、一字一字、一語一語、一文一文の正確な理解から、文章全体の正確な理解への道が始まることを忘れずに、〈精読〉型学習を進めてください。

1 『予習シリーズ』・学習課題の解説を再読する 各回の学習課題の解説には、文章の〈読み方〉の基本が説明されています。〈読み方〉の手順や注意の配り方などの基本ルールを確認しておきましょう。

2 文章を最低三回音読する 音読によって、読めない漢字や熟語、意味のわからない語句や表現などを発見し、まず、字面で〈読める〉へわかる状態をつくりまします。

3 文章内容の正確な理解を成立させる 辞書・事典を調べたり、身近な大人に質問したりして、語句の意味から文章内容まで、可能な限り正確な理解を成立させます。

4 問いに答えることで理解を確認する 〈問い〉に対する〈答え〉そのもの、あるいは〈答え〉を導くためのヒントは、すべて文章中にあります。問われた内容に対応する部分なり表現なりが、文章中のどこに書かれているかを発見することが、文章読解問題を解く基本作業です。

5 くわしい「解答と解説」を読んで理解を深める ×だった問題を大事にしましょう。解説をヒントに読み直し、考え直し、解き直す——自分の弱点克服の出発点がここにあります。「急がば回れ」——一つの文章を可能な限り正確に深く理解しようとする〈精読〉型学習を通じて〈ことばの力〉を育てることが、確かな読解力・思考力・表現力を結実するものと考えます。

◎〈文章読解〉が得意な場合の学習方法

〈文章読解〉の学習の基本は、不得意な生徒の場合と同じですが、1・2は省略し、辞書を片手に3・4を同時に進め、二十分〜三十分程度で集中して問題を解く〈演習〉型学習をしたらうえて、じゅうぶん時間をとって5の検討作業、解き直しをします。結果に応じて、1・2・3段階の点検をするようにしよう。

目次

第1回	説明文・論説文(1)	4
第2回	説明文・論説文(2)	7
第3回	物語・小説(1)	10
第4回	物語・小説(2)	14
第5回	総合	17
第6回	詩・短歌・俳句	20
第7回	随筆文(1)	24
第8回	随筆文(2)	27
第9回	総合	30
第10回	自然と人間(1)	34
第11回	自然と人間(2)	38
第12回	言葉と文化	41
第13回	異文化との出会い	45
第14回	総合	48
第15回	人と人との間に(1)	52
第16回	人と人との間に(2)	55
第17回	人と人との間に(3)	59
第18回	総合	63
解答と解説		67



◆次の文章を最低三回音読してから、後の問いに答えなさい。

① 国際感覚があるということは、ただ、流暢に外国語を話し、外国人とそつなくつきあえるというような単純なことではありません。

② 国際感覚を身につけるということは、これさえ手に入れれば大丈夫というような、一本の「魔法の杖」を見つかることでもありません。なにしろ国際感覚という言葉は、国際化という言葉がそれよりであるように、そのとらえ方が人によってまちまちだからです。

③ 日本という国が、私たちの生活にとって、依然として強い拘束力をもっていることはまちがいありません。ただ現代では、自分の利益さえ守ればそれでよい、という時代ではなくなってきました。そのことは、グローバル・ 이슈が広く認識されるようになったことにもあらわれています。

④ 世界の自然環境を守ることで、ある国の経済的利益が衝突するということは、いくらでも起こりうることです。そのときに私たちが、自分の国の利益だけにとらわれずに、より普遍的な視点から発想できるかどうかが問題になってきます。一つの時代を共

に生きるということは、その時代が抱える課題を、世界の人々と共有することでもあるからです。

⑤ 交通、通信手段の発達によって、実質的にAは狭くなりました。また、全世界が直面している困難な事態について、国境を越えて、地球規模で協力しあうことが必要な時代になっています。いま時代は、国際化時代から地球時代へと、移り変わりつつあります。この変化に対応して、国家の枠組にそつた国際感覚だけでなく、より広い地球市民としての意識（グローバル・シティズンシップ）が要請されるようになってきました。

⑥ この地球市民という言葉は、まだまだ私たちの耳にはなじまない言葉です。そもそも私たち一人ひとり、家族の一員であり、学校の生徒であり、クラブ活動のメンバーであり、自治体の住民であり、Bの国民であるという具合に、いろいろなレベルで帰属する集団や団体をもっています。それはあなたが同心円の中心に立って、そのまわりに大きな円がしだいに広がっていく様子を想像してもらおうとわかりやすいかもしれません。地球市民というものは、そのいちばん広い同心円だと見ることもできます。

⑦ 地球市民は、地球上で暮らすすべての人びとが人間らしく生きることをたがいに保障しあうという理念によって結びつくべきものではないでしょうか。「私が平和や人権を求めらるるよう、地球上に暮らすほかのすべての人も、同じ願いをもつ権利がある」という考え方は、その意味で、地球市民であるということは、人間であることと同様に、地球上に生きる私たち一人ひとりを包みこむ、もっとも普遍的な定義だといえるかもしれません。

⑧ それにしても、地球市民という言葉、いささか口マンチックで

理想的すぎる響きをともなつて聞こえる言葉かもしれません。第二次世界大戦の後に、国連で「C 市民」という言葉が使われはじめたとき、たしかにそれは美しい理想であり、憧れであり、遠くにある目標のようなものでした。というのも、当時はまだ、国家の枠を超えてものを考えるということ自体が非常に困難でしたし、それほどに国家の枠組が強固なものだったからです。4、事態は刻々と変化しています。

9 世界中に人権の意識が根をおろし、グローバル・ 이슈が共有されていく過程で、地球市民の意識が、現実に必要なものとなってきたからです。今後もこの傾向は、ますます顕著なものとならざるをえないでしょう。地球市民としての資質もまた、「遠くにある美しいもの」ではなく、一人ひとりの生き方や姿勢にかかわるものになりつつあります。

10 5、一人の人間が生まれ、育ち、やがて大人になっていくように、地球市民という言葉も、時代の変化にあわせて成熟していくことになるはずで、狭い国際感覚はやがて、より広い視野をもつ国際感覚としての「地球市民感覚」へと、その概念を広げていくことになるのかもしれない。もちろん一方で、どんなに交通が便利になり、情報が世界中を駆け回る時代になったとしても、一人一人の人間が一生のあいだに経験できることは限られています。6、入手してきた情報を分析し、それを手がかりにして想像力を働かせてゆけば、かなりたくさんのことが見えてくるはずで、

11 たとえば、いま地球上で飢えや戦争の恐怖に苦しんでいる人びとがどういう状況にあるのか。それを実際に見ることはできないとしても、その状況に思いをはせることはできるのです。そこから自分

のなすべき行動を決めていくことだってできるはずで、ですから、どんな時代になっても、想像力というのはとても大切な働きをするものなのです。

12 いま「国際感覚をもつ人とはどんな人でしょう」という質問のつぎに、では「地球市民とはどういう人なんでしょう」と問われたとしたら、さしあたって答えられるのは、つぎのようなことではないでしょうか。

13 自分の足元から世界を見る視点を持ち、同時に世界の動きの中に自分の生き方をすえて考える視点をもつこと。結局その両方をもつ人が、広い意味での国際感覚なり、地球市民感覚をもつ人ということになるのではないのでしょうか。

14 二一世紀はみなさんの時代です。希望にみちた新しい時代をつくるのは若者の力なのです。どうぞ夢をもって未来をきりひらいていってください。

(波部淳「国際感覚ってなんだろう」より)
 ※流暢……話し方が上手で途中でつかえたりしないこと。
 ※ステロタイプ……型にはまった。
 ※グローバル・イシュー……世界的規模の問題。

問一 1、6 にあてはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。同じ記号を二回以上使ってもかまいません。

- ア しかし イ たとえば ウ また
 エ つまり オ ですから

問二 A、C にあてはまる漢字二字の言葉をそれぞれ文章中

からさがし、ぬき出して答えなさい。

問三 次の形式段落を文章中にもどすには、どの段落の後に入れればよいですか。その形式段落の番号で答えなさい。

ただ私たち日本人の場合、どうしてもまず日本という国の枠を考え、その枠組の中で、「世界に誇れる日本人の資質とは何か」と考えることになってしまいがちです。

問四 線(1)「そう」が指す内容を、文章中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

問五 線(2)「自分の国の国益だけにとらわれず」とありますが、これとは反対に「自分の国の国益だけにとられる」とどのようなになりますか。次の□にあてはまる言葉を、文章中から二十一字以内でぬき出して答えなさい。

* □ができなくなる。

問六 線(3)「ロマンチックで理想的すぎる」と筆者が考えるのはなぜですか。文章中の言葉を使って、三十五字以内で答えなさい。

問七 線(4)「地球市民の意識」とは、この文章ではどのような意味で使われていますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 地球上で暮らすすべての人々が経済的利益を捨てても国の枠

をたがいに守り合おうとする意識。

イ 地球上で暮らすすべての人々が自分の国のために世界の自然環境をたがいに守り合おうとする意識。

ウ 地球上で暮らすすべての人々が人間らしく生きることがたがいに守り合おうとする意識。

エ 地球上で暮らすすべての人々がロマンをいだいて理想的な社会をたがいに守り合おうとする意識。

問八 線(5)「狭い国際感覚」と「より広い視野をもつ国際感覚」としての『地球市民感覚』のちがいを最も正しく表しているものから選び、記号で答えなさい。

ア 国という枠組の意識がまだ強く残る感覚と常に地球全体のことを意識する感覚。

イ 英語だけを学習しようとする感覚とたくさんの方の言葉を学習しようとする感覚。

ウ 狭くとも互いを尊重する感覚とより広い地域での交流をしていこうとする感覚。

エ 人間だけが幸せになろうとする感覚と動物の生きる権利を優先しようとする感覚。

問九 線(6)「想像力」というのはとても大切な働きをする」とありますが、それはなぜですか。文章中の言葉を使って、九十字以内で答えなさい。

問十 この文章を大きく三つに分けると、二つめ・三つめのまとまりはどこから始まりますか。形式段落の番号で答えなさい。

○出典：渡部淳「国際感覚ってなんだろう」より

筆者は、国際感覚を身につけている人の条件をあげたうえで、自分の国の利益だけにとらわれてはいけなさと述べています。さらに、「地球市民」という考え方を紹介しています。地球上に暮らすすべての人が、人間らしく生きることがたがいに保障しあうというのが「地球市民」の理念です。筆者の主張をていねいに読み取っていきましょう。

問一 1 空欄の前では「国際感覚があるということ」について述べて、

後では「国際感覚を身につけるといふこと」について述べています。並べて述べるときの「また」を使います。

2 空欄の前に「国際感覚を身につけている人というのは」とあって、後では「いる人」、「できる人」などと例を挙げています。例示の「たとえば」が入ります。

3 空欄の前で述べている「グローバル・イシュー(世界的規模の問題)」の例が、後で述べられている「世界の自然環境を守る」ということ、ある国の経済的利益が衝突するということ「です。例示の「たとえば」が入ります。

4 空欄の前では「国家の枠組が強固なものだった」と述べて、後では、その強固だったものが「刻々と変化しています」と述べています。前後で反対のことを述べているので、逆接の「しかし」が入ります。

5 空欄の前では「地球市民としての資質は、一人ひとりの生き方や姿勢にかかわるものになります」と述べています。後では、

前に述べたことを理由として、「(だから)地球市民という言葉も、時代の変化にあわせて成熟していくはずだ」と述べています。文末の「はずです」は、「…ならば…になるはずだ」「…だから…になるはずだ」の言い方になることから判断できます。

6 空欄の前では「限られています」と述べて、後では「かなりたくさんの方が見えてくるはずだ」と述べています。前後が反対の関係になっているので、逆接の「しかし」が入ります。

問二 空欄の前後を読んで、その部分での文脈をつかんで適切な言葉をとらえます。

A 「交通、通信手段の発達によって」「狭くなって」くるものです。ここで話題にしているのは「国際化」なので、狭くなるのは「地球」です。ここの「狭くなる」は空間的なことを言っているため、社会的な意味で使う「世界」はふさわしくありません。

B この文で述べているポイントは、「帰属(所属)する集団や団体」についてです。「学校の生徒」「クラブ活動のメンバー」などに対応するのは「国家の国民」です。

C ここで話題になっているのは「地球市民」です。しかし、Cの空欄に「地球」をあてはめると、ここまで述べてきた「地球市民」の考え方とずれてしまいます。「地球」と近い意味を表す「世界」が適切だと判断します。

問三 脱文をもとの位置にもどす問題では、脱文の中にある言葉と同じ言葉が、本文の中にあるかどうかにも注目します。また、「これ」「それ」「こういう」「そういう」などの指示語が脱文にある場合は、それに注意して、もとの文のどこを指しているのかを考えます。また、もとの本文については、文章のつながり具合がおかしいと

ころ、指示語の指すものが本文中に見当たらない部分などに注目するようにしましょう。

さて、ここでは、脱文の中に脱文以外の部分を指している指示語はないので、「同じ言葉」に注目します。すると「日本という国」が、③段落にあることに気がつきます。そして、②段落と③段落のつながり具合を見たときに、いきなり③段落で「日本という国」「自分の国益」という話題が出てくるがおかしい感じがします。そこで、②段落と③段落の間に脱文をもどしてみると、

* 国際感覚の条件 ↓ 日本人の場合 ↓ 日本という国の問題
となり、つながり具合に無理がなくなることがわかります。

問四 ふつう、指示語の指す内容は前にあることが多いのですが、後にある場合もあります。ここは、「国際化という言葉が(どうだということか)」と考えると、「とらえ方が人によってまちまち」という後にある言葉にたどりつくことができます。

問五 筆者は、「自分の国の国益だけにとらわれずに、より普遍的な(広く一般的な)視点から発想」するべきだと述べています。このことは、次の文で「一つの時代を共に生きる」と言いかえられています。そうすることで「その時代が抱える課題を、世界の人々と共有すること」ができると述べています。問題は、これと反対の場合に「できないこと」なので、答えは「その時代が抱える課題を、世界の人々と共有すること」ができません。

問六 この問題で注意しなければいけないことは、筆者は「地球市民」という言葉が「いささかロマンチックで理想的すぎる」理由を、直接には述べていないということです。かわりに「世界市民」という言葉が使われはじめたときのことを述べて、理由を説明しているの

です。そこで、「世界市民」という言葉が「ロマンチックで理想的すぎる」理由を読み取りましょう。すると、49行めに「たしかにそれ(「世界市民」という言葉)は美しい理想であり、憧れであり……というのも、当時はまだ、国家の枠を超えてものを考えるということ自体が非常に困難でしたし、それほどに国家の枠組が強固なものだったからです」とあります。これが、そのまま「地球市民」という言葉が「ロマンチックで理想的すぎる」ことの原因になります。ただ、「世界市民」の時代よりは事態は変化しているので、「非常に困難」は「やはり困難」「いままも困難」などの表現に変えます。また、字数の指定に従って、「困難であること」の理由である後半は削ります。

問七 「地球市民の意識」は、「人権の意識」や「グローバル・イシュー(世界的規模の問題)が共有されていく過程で」「必要になってきた」⑥段落以降を読んでみましょう。すると、⑦段落のはじめで「地球市民は、地球上で暮らすすべての人びとが人間らしく生きることをつがいに保障しあう」という理念によって結びつくべきものでしょう」と述べているのが見つかります。そして、補足説明として、続く文で「私が平和や人権を求めよう」とあって、「人権の意識」という考え方もふくまれることが示されています。

問八 どんなことが話題になっているのかをしっかりと覚えておけば、選択肢でまよふことはないはずですが、筆者は、国家という枠組を超えてものを考えること、地球市民の意識をもって地球上に生きる私たちという理念で結びつくことを示しています。この考え方に合うものはアしかありません。

問九 — 線(6)のある文のはじめが、「ですから」という理由を示す接

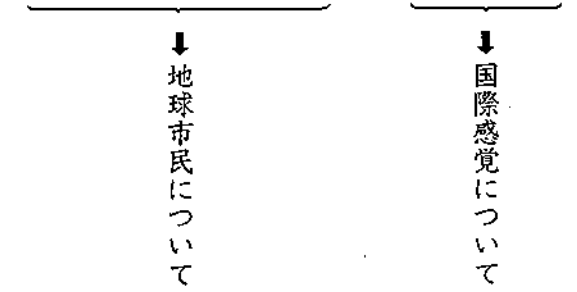
統語であることに注目します。ということとは、「たとえば」ではじまる段落の最初から、「想像力」というのはとても大切な働きをする」こと
 の理由が述べられていることになりす。あとは、九十字以内とい
 う字数指定に合わせて解答をまとめる作業になります。

⑫…国際感覚と地球市民の提示。
 ⑬…国際感覚と地球市民の関係。
 ⑭…若者へのメッセージ。
 ↓結論(まとめ)
 したがって、大きく三つに分けるとすれば「国際感覚」「地球市
 民」というキーワードにそって分けるといいてしよう。

- ・意味の重なりや指示語を省いて、文をつなぐ。
- ↓「こういう状況にあるのか。それを」を省いて、つなぐ。
- ↓最初の「できるのです」を省く。
- ・必要な言葉を補う。
- ↓「思いをはせる」のは「想像力を働かせて」できること。

問十 以上のような作業で解答例をまとめることができます。
 それぞれの形式段落の内容は、次のようになります。

- ①…国際感覚のとらえ方。
- ②…国際感覚を身につけている人の例。
- ③…日本という国の問題。
- ④…国益という問題。
- ⑤…地球市民としての意識の要請。
- ⑥…地球市民という言葉の紹介。
- ⑦…地球市民の理念・定義。
- ⑧…地球市民に先立つ「世界市民」。
- ⑨…地球市民の意識の必要性。
- ⑩…「地球市民感覚」と想像力の関係。
- ⑪…想像力ということの重要性。



問一	1	ウ	2	イ	3	イ	4	ア	5	オ
	6	ア								
問二	A 地球 B 国家 C 世界									
問三	②〔段落〕									
問四	とらえ方が人によってまちまち									
問五	(その) 時代が抱える課題を、世界の人人々と共有すること									
問六	④例 国家の枠を超えてものを考えるということ自体がやはり困難だから。									
問七	ウ									
問八	ア									
問九	④例 地球上で苦しんでいる人びとを実際に見ることはできないとしても、想像力を働かせてその状況に思いをはせることで、自分のなすべき行動を決めていくことだってできるはずであるから。									
問十	二つめ…⑤〔段落〕 三つめ…⑫〔段落〕									